

学会参加奨励金報告書

学籍番号：R22-064

名前：中田拓甫

学会名：第 60 回日本赤十字社医学会総会

開催場所：仙台国際センター

開催期間：2024年10月17－18日

1. 学会参加の感想

今回の学会参加の目的はポスターや口演の構成を学び、私自身の総合研究に対するモチベーションや構成を得ることです。私は学会参加が初めてで格式が高い会場であるのか見当もつきませんが、実際の会場ではスーツを着用しほとんどカジュアルに会話や口演を聞いていました。

学会会場ではたくさんのホールがあり、災害や内科、放射線部、看護部、医療安全など多種多様な口演が行われていました。大ホールでは中央に多くのポスターが展示し、ホールの外枠には様々な医療機器メーカーが並び自社の製品を紹介や宣伝を行っていました。私自身は看護師が利用する仮眠室のベッドや災害や病棟で使用される最新の簡易トイレを拝見しましたが、どれも見た事がないものであり、様々な機能を搭載し利用者の負担や患者さんへの感染などの軽減を行う装置でした。

また手術支援ロボット“da Vinci”を紹介していただき、体験もできました。小さいリング状のゴムをアームで操作し別の場所に移し替える体験をしました。操作台からみる視野は実際の10倍に拡大されており、肉眼でみると、裁縫針に糸を通すような繊細な操作が必要な作業でしたが、アームの操作の感度が程よく、初めてなのにda Vinciの操作が行えました。

放射線部門の口演では、検査手技の改善に関する議題や専門的知識を必要としない物品の整理に関する議題について学びました。印象的だったことは最初に「開示すべきCOIはありません。」と一言添えることと最後のまとめには“結語”と閉めることでした。近頃、wordの書式や学会などによって指定した書式があると聞きましたので書式や構成を学び、自身の総合研究に生かして行きたいと思います。全体を通してどの発表も略語が多く、大学での専門的用語と臨床現場での用語の使い方にギャップを感じました。なので再度基礎の確立とこれらの専門的知識との紐付けを課題にしていきたいと思います。

学会参加を通してゼミ生や先生との距離も深まる機会となりました。道中いろんな話やゲームなどをしてさらに仲を深めることができました。勉強面だけでなくさまざまな経験をさせていただきました。本活動に際して、本学外活動を引率してくださった平田誠先生、実験日の調整いただいた中村泰典先生及び機会を作って頂いた島津奨励金関係者の皆様に感謝申し上げます。（1041語）

2. 現地参加がわかる写真(4枚)

